

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4077200147		
法人名	医療法人社団 桜珠会		
事業所名	グループホーム可也 桜の里		
所在地	福岡県糸島市志摩師吉901-3 (電話) 092-327-2969		
自己評価作成日	令和 2 年 9 月 日	評価結果確定日	令和 2 年 12 月 11 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

桜の里では排泄できることに力を入れています。水分量摂取量は基本1,000cc以上1,500cc未満を目標とし、規則的な排便のために食物繊維をお米に混ぜ、自然排便を促すようにしています。また働きやすい職場は明るく笑顔からと考え、毎日、全ての入居者に対して必ず関わりを持つと共に、声掛けや接し方に気を配り、笑顔が絶えない明るく家庭的な雰囲気づくりを目指しています。職員間では日頃からこまめに話し合いの場を設け、情報の共有並びにチームワークの構築に力を入れています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kai gokensaku.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	令和 2 年 10 月 8 日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

当事業所は、山の麓の緑の田園に囲まれた、自然豊かな場所の2階建ての建物である。近くには母体の病院があり、利用者の体調管理等医療の連携を図っている。リビングは明るく、利用者の憩いの場になっている。事業所の理念の基づき、思いやりのある暮らしやすい場所づくりを心がけ、家庭のような生活を目指している。利用者や職員の笑顔があふれ、地域の一員として、生きがいを感じることが出来る事業所である。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	社会生活の中での孤立や孤独を味わうことのないよういつもそばにいて、少しの変化も見落とさないよう家族のように寄り添うことを中心に考えた理念をスタッフと共に作った。	事業所独自の理念を開設当初に作成し、リビングに掲示している。朝礼で理念の唱和をしている。地域密着の視点を取り入れた理念の実践に、職員は取り組んでいる。初心を忘れないように、日々態度や声かけに心がけている。理念の内容は、家族にも説明をしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	小中学校の福祉体験授業の受入れにより地域の子供たちとの交流を行ったり、地域行事や地域の他施設行事への参加などを行い地域への交流に努めている。また年末のご近所への餅配りは定例化している。	本年度は、コロナ感染対応の影響で、地域との交流の機会がほとんどない。小学校から絵手紙や手紙を貰うなど間接的な交流をしている。昨年までは、事業所の秋の感謝祭に地域住民の参加があったり、近隣の小規模多機能の祭りの参加して交流を図り、日常的に地域とのつきあいをしていた。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	福祉授業やキャラバンメイトの講習会を通して認知症への理解を働きかけたり、地域の行事に参加することで入居者への理解を深めている。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での議題はスタッフ全体会議などに連動させ共通議題とすることで意見や提案、改善内容などをサービス向上につなげている。	コロナ感染対応のため、2か月に1回利用者のサービス状況や評価の取り組みを書面で配布し、意見をもらっている。運営推進会議のメンバーに、消防団員の方がおられ、避難訓練について意見や助言をもらっている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域の事業所連絡会や部会等により社協や包括および市町村担当者と頻りに顔を合わせることができ、相談もしやすい。	電話や市役所の窓口に出向き、報告や連絡・相談を密に行っている。キャラバンメイトの登録をしており、情報交換や講師に依頼を受けている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ宣言を提示している。また拘束にならないケアについて常にスタッフ全体会議等で確認している。	日中玄関や居室ドアの施錠及び、施錠以外の身体拘束はしていない。利用者の行動パターンを把握し、見守りや付き添いをしている。身体拘束のマニュアルは作成されており、内部研修で、身体拘束について学んでいる。研修記録や資料は整備されている。	

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者の虐待に関する勉強会を行い、高齢者の人権について考える機会を設けている。またスタッフのストレスが虐待につながらないようスタッフの些細な変化に気を配るよう心掛けている。法人より毎年職員のストレスチェック診断が行われている。	/	
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	高齢者のプライバシーと人権、成年後見制度と権利擁護についてスタッフ全体会議でスタッフの理解が深まるよう勉強会を行っている。	権利擁護については、契約時や必要時に家族に説明をしている。全職員、内部研修で、権利擁護制度について学んでいる。研修記録や資料は整備されている。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約までには十分に時間を取り面談等を行い気軽に何でも相談してもらえる関係作りに重点を置いている。	/	
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から何でも話せるような関係作りに努めており、苦情になる前の問題の早期発見と解決を心がけている。運営推進会議や感謝祭等で様々な意見の交流を図っている。	職員は日常生活の中で、利用者の意見や要望を確認している。利用者が食べたいものを外食する等利用者の意見を取り入れている。家族には、感染対応中のため、主に電話で状況報告と要望の確認をしている。楽しく過ごしてほしいと要望があり、レクリエーションを工夫する等家族からの意見を反映している。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ご家族同様管理者とスタッフも日頃から何でも話せるような関係作りを目指しており、スタッフ全体会議だけでなく直接電話での相談等も気軽にできるような環境を作っている。	フロア会議やユニット会議で、職員の意見を聴き、意見交換できる機会をつくっている。管理者は職員の自発性を尊重し、声かけや電話で随時意見を聴いている。利用者の外出やケアの内容等の意見を日頃の運営に取り入れている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は職員個々の実績や努力を法人に報告し、それをもとに毎年の昇給や賞与に反映されるよう積極的に働きかけている。また日頃から努めて有給休暇の取得や資格取得のための講習会への参加など促している。	/	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	家族のような生活を理念でも唱っており、スタッフ同士でも幅広い年齢層や職歴の職員による家族のようなチーム作りを目指し、一人ひとりの特性を見極め生かせるよう心がけている。	職員の年齢層は20代から60代後半と幅広い。採用選考では、年齢や性別を理由に採用対象から排除しないようにしている。勤務時間や休日希望等勤務表の配慮をして働きやすい職場づくりをしている。資格取得希望者には、研修参加がやりやすいようにしている	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	高齢者の人権、権利擁護、成年後見制度、虐待防止、身体拘束排除を関連づけて定期的に勉強会を行い再確認を促している。	全職員、内部の人権研修に参加している。研修記録は作成しており、資料の準備もされている。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	できるだけスタッフ全員に勉強会や研修会への参加を割り当て、スタッフ自ら希望した研修会への参加も費用を支給して積極的に参加を促している。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ネットワークの連絡会や交流会等に定期的に参加しており、それらを通して交流会や勉強会、見学会等を行っている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心確保のための関係づくりに努めている	入居前には必ず、本人・ケアマネジャー・チームで面談を行い、本人との十分なコミュニケーションを図りながら、困り事や不安、要望等に耳を傾け、本人の安心確保に繋がる信頼関係づくりに努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には必ず、家族・ケアマネジャー・チームで面談を行い、家族等と十分に話をした上で、困り事や不安、要望等に耳を傾けると共に、その後も密に連絡を取り合いながら信頼関係づくりに努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まで必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前には必ず、本人・家族・入居前に利用しているサービス事業者等・ケアマネジャー・チーフで面談を行い、より多くの情報収集に努め、ケアマネジャーを中心に的確な支援の見極めを図りつつ、必要に応じて他のサービスも紹介している。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	献立書きや洗濯物たたみ、カーテンや窓の開け閉め、食器の下膳等、それぞれの入居者と一緒に行える活動を取り入れ、各入居者にも役割があると意識して頂ける様支援している。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃より、積極的に家族へ面会や外出・外泊、電話等を促すと共に、家族参加型の行事等を開催する事で、本人と共有する時間を作って頂ける様支援している。また、提携病院以外の受診については、家族へ送迎・付き添いを依頼し、家族への支援協力を図っている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の友人・知人等の面会や電話等については、キーパーソンの了解を得た上で受け入れている。日頃より、ドライブ等で馴染みの地域や自宅周辺にお連れしている。また、地域の盆踊りにも毎年参加し、馴染みの関係維持に努めている。	利用者や家族から、馴染みの人や場所について、情報を得ている。電話や年賀状等での連絡を取り持つことができるように、支援している。馴染みの店に買い物と一緒にいったり、家族の協力を得て、行きつけの美容室に行く等馴染みの場所や人との関係が継続できるように、支援している。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事やおやつをリビングにて皆で食べる体制をとっていると共に、可能な限り集団での会話・活動の機会を設ける事で、孤立せず、それぞれが支え合える様支援している。また、入居者同士の関係性を把握した上で、必要があれば職員が間に入る等の工夫をし、入居者間の交流、関係維持に努めている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時には必ず、どのような事でも構わないので、いつでも気軽に相談して頂く様、本人や家族に声掛け・促しを行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者毎に担当者を設け、本人や家族とこまめにコミュニケーションをとると共に、遠方の家族とも電話・メール・手紙等の方法を駆使して連携を図りながら、日々、希望や意向の把握に努めている。	利用者と接し、利用者と関わる事で新たな気づきや支援上のヒントを得られるという方針の下で、職員は現場で過ごしている。その情報・意見を持ち寄って全体会議、フロア会議を実施している。また、職員は誰でも、このことについて話し合いたい時には意見交換会を招集でき、その場で利用者理解を深めることができる。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談時や、入居前に利用されていたサービス事業者からの情報提供はもとより、入居後も課題、問題点を抽出しながらケアプランに反映している。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの日々の暮らしを時系列の形で介護記録にその都度こまかく記載すると共に、必要に応じて月1回の職員間の自発的な意見交換会を開催し、情報の把握、共有に努め、日々の暮らしに取り入れている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者、ケアマネジャーを中心にケアカンファレンスを開催し、本人・家族・関係者等の意見を求め、現状に即した介護計画作成に努めている。	各利用者について日々の過ごし方を24時間通して記録を取っており、24時間のいろんな場面で関わった職員が記録している。それを各利用者の担当職員が職員確認用のケアプランとしてまとめている。この職員確認用ケアプランには各関係職域からの情報、意見、モニタリング欄があり、本人へのケアの一致と充実に活かしている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に本人の訴え、家族からの意見・要望、職員の気づき等を自由に記入できる欄を設ける事で、情報の共有、ケアの改善等に活かし、すぐに対応出来る様になっている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況等によって生じるニーズに対して話し合い、その都度、柔軟かつ円滑に対応出来る様心がけている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティア・近隣の小中学校等に協力を求め、安全で豊かな暮らしを楽しんで頂ける様に努めている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者及び家族にかかりつけ医について希望を伺うと共に、連携に努め、適切な医療を受ける事が出来る様支援している。	入居時に、入居後のかかりつけ医をどこにするかについて確認している。受診の際、家族が連れて行ってくださる場合には、利用者の状況を伝えるメモを添えて、医療情報のファイルを貸し出している。また、受診から戻った際には、医師の説明など家族から聴き取っている。家族による送迎が難しい場合は、送迎支援を行っている。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は、グループホームの看護師とこまめに入居者の情報・気づき等を伝達し合い、日々の情報共有・相談を行っている。また、受診の必要性やケアに関するアドバイス等についても相談している。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者の入院時には、病院への情報提供を行っている。また、入院後もこまめに面会に赴き情報の共有に努め、退院前にも必ず経過把握・情報共有の為に面談に赴いて、退院に備えている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について指針を示し、本人・家族の同意を得ている。また、本人・家族の意向を大切にしながら、早い段階から医師・看護師・職員等の関係者間で話し合いをもつ様にしている。対応困難時には、本人・家族と話し合い、適切なサービスを受ける事が出来る様努めている。	入居時に施設の方針を説明し、同意書を得ているものの、法人母体である病院が隣接しているため、病院へ移る場合が多く、現在まで施設で看取ったケースはない。看護職員が常動していない状況があり、利用者の状況によっては、適切な機関への転居を薦めることもしている。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎月の全体会議にて、事故・ヒヤリハットの発生事象を報告すると共に、情報共有・対応策等を話し合っている。また、消防署による救命講習等にも参加し、実践力向上を図っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼夜を想定した年2回の避難誘導訓練を実施している。また、自治体主催の福祉避難所ネットワークにも加盟し、災害時の避難受け入れ施設としても登録している。	災害の種類～火災・地震・土砂崩れ～に応じて避難マニュアルを整備している。備品は飲食品と日用品とに分けて2ヶ所に保管している。先搬の台風の際、市から事前に受け入れ依頼を受けていたが、実際の受け入れ要請はなかった。運営推進会議で避難訓練について案内し、実施後の同会議で結果報告している。	
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりを尊重し、適切な言葉遣いや接し方を目標に掲げ、職員間で意識し合っている。また、トイレや入浴は出来る限り同性介助を心がけ、羞恥心配慮に努めている。個人の記録は人目につかない様に保管・管理し、プライバシー保護を図っている。	面会簿は職員が管理し、面会の際に面会者に記入をお願いしている。排泄チェック表も個人ファイルに綴じている。居室の扉にはすりガラスが取り付けられており、中の様子は窺えない。面会場所として定めた場所はなく、話の内容に応じてリビング、談話室、居室で面会がなされている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から入居者一人ひとりに希望や思いを気軽に言って頂ける様、声掛け・雰囲気づくりに努めている。その上で、入居者と職員で話し合い、出来る限り希望に沿う様支援している。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や食事・活動等において、その都度声掛けを行い、無理強いはせず、一人ひとりのペースに合わせてと共に、曜日や時間等も柔軟に対応している。買い物等もそれぞれの希望に沿った対応が出来る様、職員間で連携を図っている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えを行う際には一緒に選び、季節に合わせた衣替えも行っている。定期的に爪切り・髭剃り等を行うと共に、約2ヶ月毎に散髪にもお連れしている。必要に応じて化粧等の支援も行い、その時々に応じたおしゃれをして頂ける様努めている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の能力に合わせ、献立書き・台拭き・下膳等と一緒にやっている。昼食時には、職員も検食を兼ねて一緒に食事を摂り、楽しい食卓となる様努めている。	調理は自施設で行っている。台所はリビングに面しており、利用者の様子を見ながら調理できるため、最良の状態で配膳できる。主食、副食共に利用者の状況に合わせて最適の形態で配膳している。食事の席は固定せず、その日の様子に合わせて席を設け案内している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士に相談・指導の上、食事制限等を守りつつ、バランスの摂れた食事を個人に合わせた食事形態で提供している。毎日の食事量・水分量をチェックすると共に、必要に応じて高カロリー食品・OS-1ゼリー・ポカリゼリー等を提供し、栄養・水分の確保に努めている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前の緑茶うがい及び食後の口腔ケアを実施し、必要な方についてはスポンジブラシを用いて口腔内の清潔保持に努めている。また、義歯は每晚ポリドント洗浄を行っている。歯科往診受診者においては、歯科医師より、定期的に口腔ケアについてのアドバイスを頂いている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日々の観察並びにチェック表を用いて、個々の排泄パターン把握に努め、一人ひとりに合ったRHパンツ・パット類を検討・使用し、出来る限りトイレで排泄して頂ける様、昼夜問わず、声掛け・誘導を支援している。	入居当初から排泄状況をこまめに記録し、排泄間隔の把握に努めている。個々の排泄間隔に合わせて支援することで、オムツ使用で入居した利用者が紙パンツ使用で過ごせるようになった。夜間のトイレ利用に不安がある利用者や排便状況の確認が必要な利用者にはポータブルトイレを準備している。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	チェック表を用いて排便状況を把握し、必要に応じてホットパックや腹部マッサージを実施すると共に、日頃から散歩や歩行運動機械使用も実施している。また、乳製品や食事への食物繊維の取り入れ、イージーファイバーの使用等、飲食物の工夫にも力を入れ、自然排便を促している。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	入居者本人と相談の上、入浴日を決めている。入浴日には必ず事前の声掛けにて入浴確認を行い、拒否や時間の変更等の訴えがあれば、希望に沿う様柔軟に対応している。また、入浴前にはバイタルチェックを実施し、特変等あれば無理をせず、入浴日を変更している。	予め本人と入浴日の設定はしているが、無理強いはしない。その日の本人の様子や気分に合わせて、少なくとも週に2日は入浴ができるよう調整しながら誘っている。シャンプー等入浴用品は家族の協力を得て、利用者が自宅で使用していた馴染みの商品を使っている。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者一人ひとりの睡眠パターンを把握した上で、寝具・室温・照度等の環境面にも配慮し、安眠に繋がる環境づくりを心がけている。状態に応じて昼寝等を促すと共に、夜間の睡眠状況によっては起床声掛けの時間を変更する等柔軟に対応している。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬ファイルをリビングに設置し、職員が薬を理解・把握出来る様にしている。毎日の薬セットは2名でのダブルチェック、与薬時には名前等を復唱し、職員2名で確認し合い、安全な服薬支援に努めている。処方薬変更時や状態変化時等の際には、特にこまかく様子観察し、随時主治医等に報告・相談している。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	皆で行う行事やレクリエーションの他にも洗濯物たたみ・献立書き・カーテン開け・新聞綴り等の個別活動を実施し、習慣的役割を持って頂ける様支援している。また、希望時にはドライブや買い物等にお連れする等柔軟に対応している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的のみならず、希望に応じて可能な限り買い物・散髪・ドライブ・散歩等にお連れしている。また、外出行事を計画・実施すると共に、地域行事や病院・他施設の行事にも参加している。家族には大型連休や盆・正月等の外出・外泊も促している。	コロナ禍以前のことになるが、外に出たい利用者があれば何度でも付き添って散歩に出ている。家族から外出させて欲しいという希望がある利用者については、職員の外出予定に合わせて、一緒に外出する等していた。海が近いので、海岸へもよく出かけていた。地域密着型の利点を活かし、外出に合わせて利用者の自宅周辺を通るなどの配慮を行っていた。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の金銭は当グループホームにて管理していると共に、入居時に当方の立て替えによる金銭使用了解を事前に家族に頂き、買い物等にお連れしている。高額な買い物等はその都度、家族に相談した上で対応している。一部の入居者では小遣い制をとり、小遣い帳を用いて職員と一緒に金銭管理を行って頂いている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には家族や友人と電話や手紙のやりとり等が出来る様支援している。毎年、家族宛てに年賀状を書いて頂く支援も実施している。電話については、周りを気にせず気軽に通話して頂ける様、静かな場所にも設置している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関等には、季節に応じて花や飾り物を置き、廊下には行事の写真等を掲示、室温は不快感の無い様こまめに調節している。リビングにはくつろいで頂ける様、ソファ・テレビ・ラジカセ等を設置し、談話室にもテレビ・新聞・本棚等を設け、自由に楽しめる空間づくりに努めている。	廊下は板張りであり、壁の白と板の茶が調和して落ち着いた雰囲気を作っている。廊下には夜間用の照明が施してある。広い廊下が、リビングと談話室の間にあるお陰で、共用部はリビング、廊下、談話室と自然に3つの空間に分かれている。廊下の天井にも空調機が取り付けられているため、施設内の温度、湿度は適切に保たれている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	調度品の配置は入居者の意見を反映し、食事の席は入居者の個性や他者との関係性を考慮した上で一緒に話し合っで決めている。また、その時の気分で思い思いに過ごして頂ける様、リビング以外にも談話室を2ヶ所設けている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人・家族と相談しながら、使い慣れた家具や思い出の品、好きな物等を持ち込んで頂き、居心地の良い居室づくりに努めている。また、大切な方々との思い出の写真や行事・活動等で作成した品を飾り、家庭的な空間となる様工夫している。	どの居室も利用者や家族の思いに添って設えてある。クローゼットの扉を外して、代わりにのれんが取り付けられている居室もあった。ベッドは木製部分が多く、いかにも介護用というものではなかった。床は、転倒が重大事故につながらないように、板張りになっている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下の手すりは入居者に分かり易い様、赤い物を設置し、トイレの鍵や蛇口は容易に操作出来る形状にしている。居室の入り口には居室番号を、トイレの入り口にはトイレの文字を大きく表示する事で、新しく入居された方でも迷わず安全に生活して頂ける様工夫している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)						
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの	<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
			<input type="radio"/>	①毎日ある	<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある	<input type="radio"/>	④ほとんどない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
			<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
			<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
			<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
			<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
			<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
			<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）			
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 （参考項目：9, 10, 21）	○	①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2／3くらいと		
				③家族の1／3くらいと		
				④ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2, 22）	○	①ほぼ毎日のようにある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
				④ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）	○	①大いに増えている		
				②少しずつ増えている		
				③あまり増えていない		
				④全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 （参考項目：11, 12）	○	①ほぼ全ての職員が		
				②職員の2／3くらいが		
				③職員の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2／3くらいが		
				③利用者の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が		
				②家族等の2／3くらいが		
				③家族等の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	社会生活の中での孤立や孤独を味わうことのないよういつもそばにいて、少しの変化も見落とさないよう家族のように寄り添うことを中心に考えた理念をスタッフと共に作った。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	小中学校の福祉体験授業の受入れにより地域の子供たちとの交流を行ったり、地域行事や地域の他施設行事への参加などを行い地域への交流に努めている。また年末のご近所への餅配りは定例化している。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	福祉授業やキャラバンメイトの講習会を通して認知症への理解を働きかけたり、地域の行事に参加することで入居者への理解を深めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での議題はスタッフ全体会議などに連動させ共通議題とすることで意見や提案、改善内容などをサービス向上につなげている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域の事業所連絡会や部会等により社協や包括および市町村担当者と頻りに顔を合わせることができ、相談もしやすい。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ宣言を提示している。また拘束にならないケアについて常にスタッフ全体会議等で確認している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者の虐待に関する勉強会を行い、高齢者の人権について考える機会を設けている。またスタッフのストレスが虐待につながらないようスタッフの些細な変化に気を配るよう心掛けている。法人より毎年職員のストレスチェック診断が行われている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	高齢者のプライバシーと人権、成年後見制度と権利擁護についてスタッフ全体会議でスタッフの理解が深まるよう勉強会を行っている。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約までには十分に時間を取り面談等を行い気軽に何でも相談してもらえる関係作りに重点を置いている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から何でも話せるような関係作りに努めており、苦情になる前の問題の早期発見と解決を心がけている。運営推進会議や感謝祭等で様々な意見の交流を図っている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ご家族同様管理者とスタッフも日頃から何でも話せるような関係作りを目指しており、スタッフ全体会議だけでなく直接電話での相談等も気軽にできるような環境を作っている。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は職員個々の実績や努力を法人に報告し、それをもとに毎年の昇給や賞与に反映されるよう積極的に働きかけている。また日頃から努めて有給休暇の取得や資格取得のための講習会への参加など促している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	家族のような生活を理念でも唱っており、スタッフ同士でも幅広い年齢層や職歴の職員による家族のようなチーム作りを目指し、一人ひとりの特性を見極め生かせるよう心がけている。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	高齢者の人権、権利擁護、成年後見制度、虐待防止、身体拘束排除を関連づけて定期的に勉強会を行い再確認を促している。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	できるだけスタッフ全員に勉強会や研修会への参加を割り当て、スタッフ自ら希望した研修会への参加も費用を支給して積極的に参加を促している。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ネットワークの連絡会や交流会等に定期的に参加しており、それらを通して交流会や勉強会、見学会等を行っている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談を行い、本人の思いと不安がない様に、情報収集を細かく行い、安心して入居できる様に柔軟に対応している。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談の時から家族と話し、面談の立ち会いをして頂いている。入居後些細な事や気になったこと、要望等いつでも連絡して頂ける様な関係づくりに努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の求めている事、要望を聞いた見極め、本人に合ったサービス利用を考え対応に努めている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯たたみや洗濯干し・配膳・台拭きなど利用者ができる事に合わせて出来る喜びを共感し、信頼関係を構築している。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	担当制を設け、担当は常に連絡・面会時に細かく状態報告を行い、問題などを共に考え本人を支えて信頼関係を築いている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時に面会や電話について本人や家族に了解を得て、これまでの関係が継続できるように支援している。ドライブや散歩などで馴染みがある場所へ行ける様に努めている。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングなどで入居者同士で話したり、職員と話したりと孤立にならない様に声掛け、職員と共に一緒に作品等を作成し入居者同士が関わっていける様に支援している。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も本人・家族はいつでも連絡や相談出来るように声掛け・促しを行っている		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者本人の希望を普段のコミュニケーションから聞き出し、センター方式を活用し、本人の全体像の把握に努め、本人本位の支援の支援が継続していける様に努めている。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談で情報収集し把握に努めている。また、入居後も本人や家族とのコミュニケーションを通して把握に努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの日々の生活を介護記録に、自系列で細かく記載し全職員は経過等の把握に努めており、時によって月に一度職員間との意見交換会を行い、情報共有と把握に努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当とケアマネが中心となり、本人と家族の希望や意向に沿った介護計画を作成している。また、主治医や職員に意見や助言を求め、現状に合った介護計画の作成に努めている。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランファイルや個別記録等を活用し、一か月ごとのモニタリングを実施し三ヶ月に一度の見直しを行い、改善などに活かしている		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の状況やニーズに対して家族、関係者の協力を得ながら柔軟に対応していく様に取り組んでいる。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の生活歴の中で構築された関係者や地域ボランティア、小中学校の協力を求め、安心して生活出来るように努めている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族のかかりつけ医の意向を聞き、受診出来るように支援している。病院や主治医との連携に努め、状態の変化に応じた医療を受けられる様に支援している。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の生活状況を介護職員は看護職に報告、相談し情報の共有を行い、受診支援や看護を受けられる様に支援している。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院された際、こまめな面会を行い入院中の状態の把握に努めている。退院の際は、面談を行い状態に合った支援ができる様、病院・主治医・看護師との連携に努めている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・終末期の在り方について方針を示し、家族の同意を得て個別に対応している。各関係者と連携を図り、本人を中心としてチーム支援、実践に努めている。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	月一回の急変時や事故発生時の勉強会を行い対応を学んでいる。マニュアルや事例検討にて実践力を身に付けている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の昼夜想定避難訓練を行っている。又、マニュアルを通し火災や水害等の訓練を行っている。地域交流に参加し地域の協力が得られる様に築いている。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損なわない言葉かけや対応をしている	理念・方針で入居者の尊厳や言葉使いについて示しているように理念の共有・実践がプライバシー保護にも繋がっている。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人本位を心掛け、希望や思いに沿って実践出来るよう努め、自己決定出来るように支援している。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その都度本人に聞き、希望に沿って状態・ペースに合わせて過ごし、無理なく安心して生活できる様に支援している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時、外出時には髪や髭等は整えて、定期的に衣替えを行い、服選びも本人と一緒にしている。2か月おきに散髪の行い、おしゃれ出来るように支援している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節を感じられる食事や行事の際にはメニューを考え、盛り付けや食器等で食欲が損なわない様にしている。盛り付けや下膳を手伝って頂いている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士と連携し、栄養バランスと食べやすさ・偏りなく食べて頂けるように工夫し、季節・気候に合わせた食事提供を行っている。また、必要に応じてポカリ・OS1・高カロリーゼリー等で、脱水や栄養不足ならないように提供している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアや夜間の義歯洗浄し、口腔内を清潔を保てるようにしている。歯磨きが出来ない方に、スポンジブラシをし、うがいをして頂く。口腔内に異常がある際、歯科往診し、治療できるように支援している。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の排泄パターンを把握し、声掛けを行うことによって排泄の失敗による自尊心が傷つかない様に支援している。また、オムツ頼らず、可能な限りトイレで排泄できるように支援している。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、水分補給として牛乳を提供し、週1回ビフィズス菌を飲んで頂き、ご飯に食物繊維入れて、便秘にならない様に努めている。便秘が続く際、主治医に相談し排便コントロールが出来るようにしている		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	ご本人に入浴の曜日と回数を決めて頂き、それに沿って入浴にの支援している。また、入浴後その度にお湯を抜き、新しいお湯を入れて、不快感なく入浴を楽しむことができるように支援している。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人希望に合わせてベットで臥床し、休息して頂く。安眠が出来るように睡眠の邪魔にならないように巡視を行い、適切な水分補給を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋はファイルに綴り、職員がいつでも確認出来るようにしている。服薬ミスがない様に職員同士で確認し、見守りや介助を行い、飲み込み確認を行っている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションや行事のほかに、洗濯物干し・たたみ、配膳・テーブル拭き・シーツ張り等で活動を行いやりがいのある生活を支援している。天気の良い日は、ドライブや散歩で気分転換をおこなっている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には散歩やドライブ、買い物など一緒に行ける様にしている。家族へ外泊・外出の協力を依頼したり、地域の催しや行事へ参加したりしている。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人の金銭はグループホームにて管理し、買い物の際見守りのもと本人が支払い出来るように支援している。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて手紙や電話が随時出来るようにして、疎遠にならない様にしている。毎年、家族あてに年賀状を書いて頂く支援を行っている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やリビングには四季折々の飾り付けを行い、快適に過ごせるよう室温の調整を行っている。季節感取り入れた塗り絵や、手作りカレンダーなどを貼り、一人一人が心地よく過ごせるように努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースにはソファやイスを置き、自由に座って落ち着いて過ごせるようにしている。又、入居者同士の関係性に注意し、体調や気分に合わせて良く過ごして頂ける様な配慮や工夫に努めている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使用していた思い出のを品置いたり、家具の配置を変えたり、家族の写真を飾ったりと本人が心地よく過ごせる様に努めている。行事で作った品やカード等も飾ったりしている。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者それぞれの状態に合った危険防止策を考え、職員はリビング全体が見える様に必ず1人は配置し安全に過ごして頂き、入居者の位置の把握に努める。居室の名前・トイレの明記を大きくし、混乱しない安全な環境が送れるように行っている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)						
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの	<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
			<input type="radio"/>	①毎日ある	<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある	<input type="radio"/>	④ほとんどない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
			<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
			<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
			<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
			<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
			<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
			<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	① ほぼ全ての家族と		
				② 家族の2/3くらいと		
				③ 家族の1/3くらいと		
				④ ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		① ほぼ毎日のようにある		
				② 数日に1回程度ある		
				③ たまにある		
			○	④ ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		① 大いに増えている		
			○	② 少しずつ増えている		
				③ あまり増えていない		
				④ 全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	① ほぼ全ての職員が		
				② 職員の2/3くらいが		
				③ 職員の1/3くらいが		
				④ ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		① ほぼ全ての利用者が		
			○	② 利用者の2/3くらいが		
				③ 利用者の1/3くらいが		
				④ ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		① ほぼ全ての家族等が		
			○	② 家族等の2/3くらいが		
				③ 家族等の1/3くらいが		
				④ ほとんどいない		